相良高校ビジネスチャレンジのイメージ

高校教育の課題

生徒の課題
- 何のために学ぶのかわからない
- どの進路に進むべきかわからない
- 学習時間の減少
- 自分の適性がわからない

教師の課題
- 一方的に教えることに終始
- 教科科目を超えた知識技術がない
- 教科指導にかける時間がない
- 就業経験がない

学校の課題
- 教育にかかわる予算の減少
- 大学や企業に入るための組織
- 工業モデルの教育を脱することができない（従順さ、単一性のみを求める教育）
- 普通科の画一的な教育

日本の課題
- 少子高齢化に伴う社会保障費増
- 地域産業の衰退
- 起業家の減少
- 国際競争のなかで日本の地位が低下

相良高校
普通科、商業科

カリキュラム・マネジメント
活動のなかで発見した課題を授業で取り上げて解決できるようにする。またカリキュラムを見直す機会とする。

有志（普通科と商業科の生徒及び教師）が放課後等に活動

講師 専門家
指導・助言

市、地域企業…が参画。
教育の評価等

相良高校ビジネスチャレンジ

プロジェクトの柱
地域の魅力ある資源を発掘し、それを高校生の視点で改良・開発した商品を売る
- 経常的に収益活動を行うことを目指す。
- 仕入、販売、会計、販売促進等を実践する。
- 答えのない課題を協働して解決する。

国語を使い広告を作成、数学をマーケティングに使う…など

教師・生徒がともに学ぶ
学びの支援
主体的活動

オンラインショップ
地域資源を発掘、開発販売等
二次的事業も生む CSR（社会貢献）

地域課題を解決

実践的・体験的な学び
やらなければならない場
産業社会に触れる場

課題の解決イメージ

生徒
- 学習内容の統合化（関連付け）
- 地域課題や産業に目を向ける
- 進路意識の芽生え
- 商品サービスを提供する側のキャリア

教師
- 地域の教育資源や人材を活用できる
- 教科横断型授業、地域に関連した授業
- 地域の産業や職業に目を向ける
- 学びの場

学校
- 社会に開かれた教育課程
- カリキュラムマネジメント
- 主体性を育て、多様性を認める
- 学校ごと特色ある教育システム構築

日本
- 起業家教育、金融教育の推進
- 産業の振興
- 地域の課題を継続的に解決する
- 教職員の働き方を改善

事業の３カ年計画

1年目：事業を始める

・活動が学校の単位として認められるよう働きかける

2年目：事業を安定化

・出資をした地域の皆様に報告（株主総会等で）できるよう計画中

3年目：法人化